

子どもと遊び



幼稚園の昔の遊びと今の遊び

佐久間重代

「幼稚園の昔の遊びと今の遊び」について子どもの遊びの変化を比較してかくようにとの御依頼がありましたので、私が長い間当園に在職しておりますので園児のあそびについて記憶をたどり、また社会人となった園を修了した人たちに幼児時代に園で遊んだ楽しかった印象にのこっていることをきいてみました。時代の変化と共に子どもたちのあそびも変ったものもありますが大正より昭和の今日まで少しもかわらない遊びもたくさんあります。遊びの種類を下にあげてみます。

(男児のあそび)

兵隊ごっこ、戦争ごっこ、チャンバラ、陣とり、輪まわし、スーパーマン、消防ごっこ、まりなげ、野球、こま、すもう。

(女兒のあそび)

まりつき、お手玉、人形、あやとり、花びらとうし、おはじき。

(男女共通のあそび)

おにごっこ、かくれんぼ、ままごと、魚つり、おみせごっこ、汽車、電車ごっこ、縄とび、幼稚園ごっこ、羽根つき、かるた、すごろく、めかくしおに、ジャンケンとび、電話ごっこ、水鉄砲、色水あそび、シャボン玉、積木、組木、絵合せ、石積、パドミントン。

(集団あそび)

かごめかごめ、天神様の細道、ひらいたひらいた、坊さん坊さん、椅子とり、ハンケチおとし、かみなりおとし、はないちもんめ、竹の子一本おくれ、子とろ、あぶくたった。

(施設遊具のあそび)

砂場、ブランコ、ジャングル、シイソー、すべり台、廻転木馬、

鉄棒、竹のぼり、どんどん橋、平均台、太鼓梯子。

(製作あそび)

折紙、切紙、織紙、組紙、粘土、輪つなぎ、むぎわらつなぎ、南金玉つなぎ、手さげ、大阪マンコ、紙ひこうき、ヤジロペー、空箱利用、紙芝居、人形芝居、あぶり出し。

(自然物のあそび)

桜の花びらつなぎ、桜んぼさがし、おちばひろい、藤の葉のじくあつめ、どんぐりひろい、藤豆さがし(青桐の実、ままごと舟のあそび)、松ぼっくり、貝殻あつめ、石ころひろい、砂で砂糖や。

以上の遊びのうち、戦争ごっこ、兵隊ごっこ、陣とり、などは時代によるもので、現在はみられません。当時は、園に木製の鉄砲がありました。男児にはその鉄砲が実に一番の魅力とでもいえます。服装も和服が多く、男児は筒袖に袴をはいていました。鉄砲は肩に、腰にはその鉄砲を刀の代りにさして、兵隊ごっこ、戦争ごっこは盛んに庭の築山が砲台になったり、木の中にかくれてジャングルに、出たり入ったり、元気いっぱい活動しました。その遊びは当時の男児たちの一番の楽しい生活の一つだったと思います。

時代と地域の環境また園の施設・設備・家庭環境により子どもの遊びが異なることはいうまでもありませんが、当園は大正二年の創立で、昭和二十年四月十三日の空襲で戦災の為焼失するまでは

独立園舎であったのでなんとなくのんびりと生活が出来ました。

園舎は木造平家、園庭は、築山、花壇、藤棚、門前と庭には大きな桜の木が植えられ、四月はお花見も出来、桜の花がちりはじめると庭は花吹雪で真っ白になり、入園もない子どもたちも花びらとうしをして遊び、「寒」になるとおちる桜ん坊をさがし集めて女兒は喜んで自然に親しみながら遊ぶことが出来ました。

築山には四季の花が植えてありいつも美しく咲き、ちった花を集めてはままごとのごちそうにつかわれていました。庭一面の藤棚で、五月は美しい紫色の花の下で砂場遊び、花がすむと、緑の葉が夏の日よけとなります。また秋は、藤の実がたくさんおちますとお店ごっこの材料となり、中の実は黒くてかたいのでおはじきにつかわれました。また、さやは、短刀の代りとなって男児の遊び材料となりました。

別に教えたり、誘導はしませんでした。子どもたちはそれぞれに自発的にくふうして遊びに利用していました。青桐の実もまた子どもたちの遊び材料として喜ばれました。舟のかたちのおはままごとのおさら、水にうかせ、砂場で池を作った時は舟にしたり砂を入れて売りやごっこなど、種々の遊びをしました。

自然の材料で子どもたちが、豊富に楽しく遊ぶことが出来たことは幸福でした。現在はみられない遊びの一つに(石積遊び)があります。これは当時庭にしきつめられた小砂利の中から同じ位の小石を集めてきて、三千個位つみ重ねて山をつくります。四、五人

から七、八人の男女がグループになってジャンケンでかった人から、ひとりずつくづさぬようにそつと他の石にふれないようにとるのです。たぐざんとれた人が勝となります。今では石もありませんし、全然見られません、毎日毎日盛んに遊んだものです。そんな時は一生懸命に真剣に集中するのでおちつきのない子や、乱暴な子どもなどにはよい遊びと思いました。

ままた遊びも自由に庭に『いざ』を持ち出して山の段々にしたり、縁台を二階にしたり、思い思いのところではじめます。日光浴をしながら、庭のすみの草をとったり花や木の葉を集めて自由に遊んでいました。

新聞紙や広告紙を折ってメンコや帽子、紙ひこうきとばしも盛んにしました。これらは意欲の旺盛な年令に適した遊びであつたのでながくつづきました。

当時、藤輪が大・中・小、とたくさん備えてありましたので、子どもたちは自由に持ち出して兵隊ごっこに、汽車ごっこ、御用提灯にくふうされ、いろいろに利用されました。また木製の鉄砲がありましてこれも男児にはなよりの遊具でした。兵隊ごっこの銃に刀に、ひもでしばって手づなにし、馬の代りにまたがって軍人あそびをしていました。現在の子どもの遊びに比して当時の子どもは素朴な感じがありますが、自然に接し自然に親しみながら自由のんびりと開放された気分です。昔は一斉保育でしたから、時間で集つたり遊んだりしました。

室内保育は、十五分ないし二十分位、あとは自由遊びを四十分から一時間位で、お弁当の時間は仕度と後の休息をふくめて一時間位、食後はまた、自由遊びを一時間位して帰宅となります。

遊びの時間は十分にとつてありますが、仕事は一斉にするのですから、したくない子もあるわけですが、いやでもさせられるのです。もつとも個人差がありますので、出来ないものは出来る子どもに手伝わせたり、帰宅後つくつておいてあげることもありました。先生の計画したものを一斉にするのですから、自由遊びの時間になると全く、当時の子どもたちはどんなに開放されて自己満足が十分に得られたことでしょう。

思う存分にそれぞれのくふう・創造性を發揮して遊ぶことが出来、のびのびと活発にまた楽しく遊びました。

終戦後昭和二十二年四月に現在の小学校に併設され再開園になりました。当時は、戦災をうけた元の園舎に鉄筋の運動具のこざれていましたが、運ぶ人夫はなく、遊具は砂場を作つたのみで砂場の遊具もなく、御飯シャモジとお椀を家から持つて来て使わせ、絵本もないので代用に名所や風俗の絵はがきを見せました。絵をかくにも紙はなく、鉛筆クレヨンもなく、求めたくても品がないのです。近所の建築場から木片をもらつてきて積木代用に使いました。全く保育計画をたてたくてもたてられない毎日でした。それでも子どもたちは何かして遊ぶことを考えてくれます。室内の遊びでは絵はがきを二枚立たせて机の面を手でたたきたおしたり、絵

はがきを合せて積み重ね、いろいろの形を作って遊び、涙ぐましい程でした。また外遊びの時は地面に木の枝や釘をひろって来て絵をかいたり、五、六人で国とり遊びや花かき遊びをしていました。おにごっこや、竹の子一本、かごめかごめ、かくれんぼ、かげふみ、などもいたしました。自然にめぐまれた独立園舎の遊びと戦災後の物資のない時を比較してみても考えさせられます。しかし、子どもは十分に材料を与えられ自然に恵まれて生活すれば創造性も豊かになるし、遊びも発展し興味も増します。

終戦後の何にもない時はあわれでしたが、あるもので自分たちが結構くふうして楽しく遊びました。遊びの材料になるものを、物資のないところを少しでもと準備するのに苦心しました。砂場遊びが唯一一つの遊び場でした。やけた庭のすみにも草が出て来ましたので秋には虫とり遊びやトンボとりが出来ました。

大正・昭和のはじめ頃は一斉保育でしたので、一日の計画は五項目による活動を主体とし、自由遊びは小学校の放課時間と同じように取扱われていました。自由遊びの時は職員も子どもの遊びをみながら遊びの仲間入りをしたり遊べない子を誘導して友だちと遊べるように仕向けたりしました。乱暴な遊びや、危険だと思われる遊びは注意もしました。

文化時代の現在では設備もよく、環境設定も十分にされており、登園したら自分たちの好きな遊びに入れるようになっていきますし、子どもは自己選択をして好きな遊びにとびつくこと

が出来ます。昔の子どもと今の子どもを比較してみますと、現在の子どものは理智的であり、昔の子は素朴であると思います。材料はなくても自分たちで考えて遊びをさがし出し、くふう創造力はあっても平凡で単純でした。

今の子どもは知能程度も昔に比して向上していますので、遊ぶ態度がちがいます。砂場、積木などの遊びでも複雑で高度に思われます。自分たちが製作したもので遊ぶ紙芝居、人形芝居、劇遊び、テレビごっこなどの遊びを見ても昔では見られない向上進歩と思います。私共は一人ひとりの個人差を知って自由遊びの場でもよりよき指導をしなければなりません。現在のように小学校の併設ですと自由にのびのびと遊べない点や小学生の乱暴なまねをする点などの不都合があります。

テレビが最近多くの家庭にあるので子どもたちがその影響を受け、それが遊びの面にも出てきます。家庭でも子どもの見てよいものとよくないものを心して見せるようにしてもらいたいと注意はしても、とかくおとなや年上の兄弟などが見ているとまねをしてはげしい遊びが表われることがあります。すもうや野球などはテレビで実際を見ると興味も深く遊びが一番発展して楽しく遊べます。テレビの見せかたについては家庭とも連絡して十分に注意することが大切なことと思います。時代と環境によって子どもたちの遊びは変化されるということをしみじみと感じさせられました。

(東京・四谷幼稚園)